

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
511001	
選定番号	142

代表者	校園名 :	大阪市立東粉浜小学校
	校園長名 :	校長 津田 賢
	電話 :	6672-0313
	事務職員名 :	松谷 水穂
申請者	校園名 :	大阪市立東粉浜小学校
	職名・名前 :	教頭 三好 和彦
	電話 :	6672-0313

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）												
2	研究テーマ		自分の考え方を表現し、深めようとする子どもを育む														
3	研究目的		<p>・昨年度、文部科学省のLDXS指定校として「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善を図りICTの活用を進めてきた。ICT端末を使用した学習はある程度定着してはきているが、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための一人一台学習者用端末の活用に向けては、これから課題である。</p> <p>・今年度より新たに個別最適な学びと協働的な学びをより一体的に充実させていくとともに、自分の考え方を表現し深めようとする子どもを育むことを目的とした研究を進める。</p>														
4	取り組んだ研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5ポイント）</p> <p>4月・研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果、年間計画等について 共通理解を図るためICT研修会や会議を開いた。 ・児童教員の実態把握のため、児童、教員アンケートをフォームズで実施・分析した。</p> <p>5月【研究授業3年 社会科】（指導案検討会・研究討議会）Skymenu発表ノートで資料を配布し 児童が自分で資料を選びながら課題解決できるようにした。</p> <p>7月・研究について理解を深めるため教科・領域研修会、ICT実践報告会を行った。</p> <p>9月【研究授業5年 社会科】（指導案検討会・研究討議会）Googleスライドや思考ツールを活用し 対話を活性化するようにした。</p> <p>【研究授業4年 図画工作科】（指導案検討会・研究討議会）Googleスライドやラミネートの資 料など個別最適な資料となるよう工夫し、対話をしながら鑑賞活動ができるようにした。</p> <p>10月・全市公開の研究発表会を行い、研究の取り組みを発表した。</p> <p>【研究授業4年 体育科】GoogleスプレットシートやGoogleスライドを活用し、学習の目標とふ りかえりを記入することで学びがグラフ化されるようにするなど、学びのふりかえりを可視化し自分で学習を調整できるよう工夫した。</p> <p>【研究授業5年 理科】GoogleスプレットシートやGoogleスライド、クラスルームなどを活用し 学び方を示すことで自分で学習を調整しながら進めるができるようにした。</p> <p>11月・個別最適な学びについての研究発表会に参加し研究への理解を深めた。（東京学芸大附属小）</p> <p>【研究授業2年 生活総合科】（指導案検討会・研究討議会）Skymenu発表ノートや思考ツールを 活用し、おもちゃや政策について、自ら改善策を考えながら学習を進めるようにした。</p> <p>【研究授業6年 社会科】（指導案検討会・研究討議会）Googleスライドを活用し対話を活性化 するようにした。</p> <p>【研究授業1年 生活総合科】（指導案検討会・研究討議会）Skymenu発表ノートやGoogleクラス ルームなどを活用し学びをいつでもふりかえり、深めるよう工夫した。 ・LDXS指定校の視察に行き、ICTの効果的な活用法を学んだ（新潟）</p> <p>1月・研究の成果と課題を分析するために児童アンケートの実施し分析した。</p> <p>2月・来年の研究につなげる指標の一つとして学力経年調査の結果分析をした。 ・休み時間などには、「ラッコたん」、「寿司打」などのタイピング練習アプリができるようにしタイピ ング能力が向上できるようにした。また中学年以上は連絡帳にGoogleクラスルームを活用するようにし自 分で情報収集できるようにしたり、一人一台端末の活用を日常的にできるようにした。さらに研究授業で はTeamsで様子を配信しどこからでも参観できるようにした。そして討議会ではGoogleスライドを活用し 教員の情報活用能力、端末活用も向上できるようにした。</p>														
5	研究発表等の日程・場所・参加者数		<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 10 月 29 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 30 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立東粉浜小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	日程	令和 6 年 10 月 29 日	参加者数	約 30 名	場所	大阪市立東粉浜小学校			備考					
日程	令和 6 年 10 月 29 日	参加者数	約 30 名														
場所	大阪市立東粉浜小学校																
備考																	

	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>理解した情報や感じたこと、想像したこと、形成した考えなどをまとめ、言葉を通じて表現しあい、自己や他者を尊重しようとするとともに自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするようになる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>学習の振り返りの中で、自分が考えたこととその理由を説明することができるようになったり、友だちの考えを聞いて自分の考えに付け足したり新しい考え方を見つけたりすることができたと肯定的な意見をもつ児童の割合を8割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>全児童の平均を見ると8割以上の児童が、①「自分の考え方を持ち表現する力」②「自分の見方考え方を広げ深めようとする力」に関する項目に肯定的に回答していることがわかる。（①83.8%②91.1%）特に②の力については9割以上となっており、研究の成果が顕著に見られる。それぞれの学年で個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざしながら授業改善を行った成果が見られる。□</p> <p>□ □ □ □ □ □</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、効果的な一人一台端末の活用を一層行えるようにする。</p> <p>『検証方法』</p> <p>研究発表会で研究の成果を発表し、指導助言者による指導助言並びに参会者からの意見、感想などをいただくことで、その検証を行う。また参会者にアンケートを実施し、研究に対しての肯定的な意見を8割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>参会者にアンケートを実施し、①「この研究発表は、ご自身にとって充実していましたか。」②「この研究発表を通して、内容を深めたり、広げたりすることができましたか。」の項目に対して①は98%、②は96%が肯定的に回答していた。このことから本校の研究の成果を大阪市の教職員に広めることができ、教員の資質や指導力向上につなげることができたと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>情報端末の基本的な操作や、問題解決・探求における情報活用、情報モラルなどの情報活用能力向上に取り組む。</p> <p>『検証方法』</p> <p>年度初めと終わりに情報活用能力についてのアンケートを取り、情報端末の基本的な操作技術や、問題解決・探求における情報活用能力、情報モラルについての理解などについて肯定的な意見をもつ児童の割合を8割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート調査より、①「情報端末の基本的な操作技術」や②「問題解決・探求における情報活用能力」、③「情報モラル」についての理解などについて肯定的な意見をもつ児童の割合を9割以上にすることができた。（年度初め⇒終わり①88.1%⇒92.9%② 85.3%⇒90.5% ③93.6%⇒95.9%）また全体の平均得点の年度はじめと年度終わりを比べても、ポイントが上昇していることがわかる。このようなことから児童の情報活用能力などが向上したという研究の成果が見られる。</p>
--	---

<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 授業中にICTを活用して指導したり、児童のICT活用を指導したりする力の向上を図る。</p> <p>6 成果・課題</p> <p>『検証方法』 年度初めと終わりに情報活用能力についてのアンケートを取り、情報端末の基本的な操作技術や、問題解決・探求における情報活用能力、情報モラルについての理解などについて肯定的な意見をもつ教員の割合を8割以上にする。</p> <p>『検証結果と考察』 教員自身の校務にICTを活用する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力、知識や態度について指導する能力に対して肯定的な回答をする割合は8割以上にすることができた。しかし授業にICTを活用して指導する能力に対してはあと1.5ポイント足らなかった。今後は協働制作のためにICTを活用させる指導や繰り返し学習する課題、児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題にICTを活用して指導することに対しての重点を置いていく。しかし、年度初めのアンケート結果と比べると8ポイント向上していることから考えると、授業中にICTを活用して指導したり、児童のICT活用を指導したりする力の向上ができたと考えられる。</p>	
<p>【研究全体を通した成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>○児童が資料を選べるようにしたり、思考ツールを活用したりすることが個別最適な学びを充実させ自分の考えを持つ手立てとなった。また考えたことをグループでさらに練り上げる時間をとるなど、小グループでの活動を効果的に取り入れることで児童が考えを深めようとしてすることにつながった。</p> <p>○クラウドを活用することで、学びの記録も含めた他の児童の考えをいつでもどこでも見ることができた。これによって全体交流での対話が活発になり進んで、自分の考えを広げ深めようとする姿が見られた。ICTの効果的な活用方法を考えることで、児童だけでなく教員の情報活用能力の向上につながった。深い学びを目指すためには、児童がどのような「見方・考え方」を働かせるのかを明らかにして単元構成を考える必要がある。指導者がこの視点を持って教材研究に取り組むようにする。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>『代表校園長の総評』</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>自分の考えをもてるようになること、それを発表し他者と意見を交流することでより考えを深めること、考えを練り上げることを研究の大きな柱の一つと考えてきた。同時に、昨年度実践した文部科学省リーディングDXスクール事業を踏まえ、一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として誰でも簡単に使えるように学年で系統立て指導育成してきた。その結果、各自の考えを集団の中で比較検討したり共有したりすることで、より深い学びへとつなげるようになってきつつあるので、次年度以降も期待したい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>	